

<今回>225回目 2017年12月25(月)15時~18時 602号室

読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 p47壁画古墳と石馬 より

<前回>224回目(17-12-4) 出席者8名

資料(17-11-20-1)前回のまとめ(清水)

-2) 古代天皇年齢表(清水)

-3) 神門神社(清水)

-4) 最大の円墳(榛葉)

A 報告

高山さんは義父の100歳のお祝いに立ち会い、下中村さんの母上は90歳で急逝されたと報告があった。

懇親会5名 津多屋10232円(5・2000) -232円

B 資料 -2) 古事記日本書紀から得られる天皇の年齢表。継体以前の2倍年暦の様子がわかる。(私は推古以前)

-3) 九州宮崎東臼杵郡南郷村の神門神社(712年創建)の概略を多元の会で行った旅行時の資料から紹介した。百済の王族が親子(禎嘉王と福智王)で亡命し、年末には親子が会うという師走祭り(比木神社)が9泊10日(90km)で2社合同で行われていた(昭和22年まで)が現在は2泊3日で行われている。韓国からの参拝者が多い。2005年には西の正倉院として完全に奈良の正倉院を模した校倉を作って33面の古代鏡や馬鐸、馬鈴、須恵器の甕などを収蔵している。

-4) 奈良富雄丸山古墳(日経新聞)が国内最大の円墳(110m)と紹介された。これまでは行田市の丸墓山古墳(6世紀前半)これは4世紀後半(奈良から河内に大古墳が作られる移行期)

C 読書「邪馬壹国の証明」のp37 子供にもわかる謎 その2 から。

1) 弓矢は失われるが鏃は残る。弥生の山野に鉄の鏃は残るはずだが、大和には鉄の鏃はない(青銅の鏃はある)。

2) 卑弥呼の公的装いは野卑に仕立てられすぎている。錦の交流地である。魏から送られ、倭から倭錦、異文雑錦を送っている。夷蕃では倭のみが錦の産地である。錦の出土例は9つ、筑前8つ、島原1つ。博多湾が5つ、立岩が3つ。弥生期の木綿(ゆふ)は到る所に出るが、絹は9例のみ。(ゆふの原料について話し合った。楮など極細糸化製法)

3) 何故ストレートにきて博多湾に上陸しないのか?。外国の使節団が直接入港するのは軍事的にも危険だし外交的に非礼になる。首都の前面の地で郊迎する礼を取るのが当たり前、扶余伝にも(推古紀にも難波津に出迎えている)。郊迎に至るため陸行600里(500里+100里)は自然である。

<卑弥呼と倭弥呼>

4) 三國志倭人伝には**卑弥呼**が5回。帝紀に冒頭1回。正始4年冬12月倭女王**倭弥呼**遣使奉獻。

5) 倭人伝では魏の明帝の詔書をはじめに親魏倭王卑弥呼に制詔、夷蕃の字面として下目にみる**卑弥呼**が相応しい。

6) 卑弥呼は上表文を書き魏使に託している。正始元年倭王(ヒミカ)使(魏使)に因って上表し詔恩を答謝す。ヒミカの自署名は倭ミカであった。文字習得の例は金印、室見川の銘板、そして尚書佐治天下の次の1句。海隅日を出す。率倭せざるはなし。島夷皮服(注、海曲之を島と謂う。其の海曲山有夷其の上に居を謂う)率倭は天子に服属するの意(諸橋大漢和辞典)

7) 倭人伝冒頭に(倭人)山島に依りて国邑を為す。(尚書の島夷を背景にした語)

8) 3世紀倭人のインテリ(卑弥呼の文字官僚)は洛陽のインテリと同様、尚書の素養を共通にしていた。倭国内の朝廷において既に尚書が読まれていた。日本列島の弥生遺跡中文字遺物を大量に出土しているのは筑紫しかない。鏡129面(前漢式鏡165面の内)大半に文字がある。

次回日程 18-1-8(月) 16時から18時 601会議室

1-29(月) 15時から18時 603会議室